

わかさぎ

今年はいっぱい 釣るぞースペシャル

あの冬の感動を忘れていない人はいないでしょう。一昨年のスノーキャンプで釣った「わかさぎ」を素揚げにして食べましたよね!しかしあのときは、結構長い時間竿をたらししていたのにもかかわらず「一人一匹」という情けない結果になりました。今回はNODの釣り名人「シゲちゃん」がいますが、みんなで予備知識を固めてわかさぎ釣りに挑戦して一人10匹を目標にがんばりましょう!と、いうことで、今月号はわかさぎ釣りのテクニックを紹介します。心して読め!そして釣れ!そして泣け!

よく釣れる時間帯

釣りはなんといっても魚が動いている時間帯に釣れないと釣れません。わかさぎも一般的な魚と同様に早朝と夕方が良く釣れます。よくいう「まずめ(夜明け、あるいは夕暮れの薄明るい状態のこと)」の時間帯を狙いましょう。なお、夕まずめよりは朝まずめの方が釣れるみたいです。朝の10時を過ぎる頃になると、アタリがぱったり止まります。

よく釣れるポイント

次に、良く釣れるポイントです。ベテランの釣り師は、湖岸の樹木の生え方等を見れば、湖底の様子や回遊コースが手に取るように分かるそうです。が、素人はわからないので、現場では、生の情報集めが釣果を分けます。釣り場の管理人や常連の方々に「どのあたりが釣れる?」「タナはどのくらい?」「エサは何がいい?」と、気軽に声かけられればベストです。聞く人がいない場合は...シゲちゃん任せですね。

エサ

サシやアカムシ等、エサとなる虫は数種類ありますが、よく釣れるエサはポイントによって違います。常連さんに聞くか、何種類か用意してその場で試してみましょう。食いが渋い時には、アカムシが良いようです。わかさぎ釣りマニアは、「サシにチーズを食べさせてエサに使う」とHPに書いてありました。チーズのニオイが魚にアピールするらしいのです。

しかし、釣果を左右するのは「エサの種類」よりも「エサの付け方」です。

一、エサは頻繁に付け替えるべし

新鮮で生きがいいエサほど釣果は上がります。ハリにまだエサが付いているからといって長時間そのまましておくのは、釣りを放棄しているのと同じです。30分に1回はすべて付け替えましょう。このとき、針先は必ず出すようにしてください。達人になると、あの小さい針の針先以外を全て隠すようにして、丁寧にサシをつけるそうです。

一、エサは二つに切断するべし

つまり、エサの体液で魚を誘って食わせようという作戦です。ハリにサシをチョンがけしたら、仕掛け用の小バサミでチョン、チョンと胴体を切断していきます。残酷な話ですがこれが効果絶大。水中にサシのエキスが流れ出し、誘われたわかさぎがたまたまエサに食いつくというわけです

テクニック

実はわかさぎ釣りはとても忙しい釣りです。「のんびりと糸を垂らして、あとは待つだけ」というイメージは捨ててください。どれだけ忙しいか、エサをつけた後の一連の動きを、手順を追って説明していきます。

▶ タナ(魚の群れがいる深さ)の見極め

まず、エサを付けた仕掛けを穴に投入します。始めの2~3回はタナを探ります。湖底まで仕掛けをおろしたら、アタリがあるまで数分ごとに仕掛けを上げていきます。5分待ってアタリがなければ30cm上げて、また5分たったら上げて、というようなことを繰り返します。これを数セット繰り返すうちに、魚がどの辺の深さ(タナ)を泳いでいるのか、何となく分かってきます。

▶ 釣り開始!

タナが分かったら、本格的に釣り始めます。狙ったタナに仕掛けを降ろし、竿を動かしてわかさぎを「誘い」ます。

じっと待っていても、良い釣果はまず期待できません。10~50cmくらいの幅で仕掛けを上下左右に揺らし、魚の食い気を誘うのです。

そして、ときおり仕掛けを「ぴたっ」と静止させましょう。エキスを振りまきながら漂うエサの動きが止まった瞬間、わかさぎは思わず食らいつきます。仕掛けを止める時間は3~10秒程度が良いと思います。

試行錯誤を繰り返し、良く釣れる「誘いの幅とリズム」を見つけてください。

竿の穂先が「ぶるっ」と震えてアタリがきたら、10~50cmほど竿をしゃくり上げてアワセ(さかなにハリを引っかけること)ます。

アワセをしないと、魚はハリをつつくだけで口にはかかりません。いずれ時間がたてば逃げてしまいます。神経を集中して微妙なアタリを見逃さず、ぶるっと来たら素早くアワセましょう。この「アタリ アワセ」の一連の操作が、わかさぎ釣りで最も神経を使い、それだけに最も面白い局面です。

▶ たぐり

竿を置いてから、両手を使って50cm位ずつ穴から引き出していけばよいでしょう。

PRIVATE